

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KIUŜIA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

# La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KIUŜIA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

## Fondita en 1951 N-ro 873 novembro 2023

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ  
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802

KIUŜIA ESPERANTO-LIGO  
2-190, Sisaido, Tarami-tyô, Isahaya-si, Nagasaki, 859-0407,  
MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU  
Sinhama-tyô 2-4-18, Marugame-si, Kagawa-ken, 763-0063,  
KOSAKA Kiyoyuki

### ENHAVO

若者も活躍した第22回中四国エスペラント大会

..... 福井 政春 1-2

国際色豊かに「エスペラント普及会」100周年記念行事  
..... 木元 靖浩 2

楽しい作文教室(147)..... 塚本 猛 3

ワン・ワールド・フェスティバルの成果、中学校の文化祭へ  
招待される ..... 竹森 浩俊 4

Rakontoj el Hamburgo:49€-bileto en tuta  
Germanio ..... Mariko Aoshima 5

対訳:源氏物語第54帖 夢浮橋(5)..... 紫式部/belmonto 6-7

Kajero Libervola:..... 8

第4回エスペラント冬期学校のご案内..... 9

夢十夜(11) ..... 夏目 漱石 / 沖 恵明 10-11

ハンガリーから友人の息子さん来阪 ..... 藤井 由美子 12

La Movado:各地のザメンホフ祭予定ほか ..... 12-13

Kurantaj Vortoj: トーン・ポリシングほか ..... 13

Kultura heredajo: 小倉百人一首(敦忠) ..... 13

Vortkruca enigmo / 作文教室成績 ..... 14

第31回ワン・ワールド・フェスティバル ..... 15

Mikspoto / 作文教室課題 / KLEG事務局だより ..... 15

編集ノート ..... 16

## 若者も活躍した第22回中四国エスペラント大会

福井 政春(岡山エスペラント会)

10月1日(日)岡山国際交流センターにて第22回中四国エスペラント大会が行われました。今回は4年ぶりに対面で会う大会になりました。ただ、せっかく今までズームでも一定の成果を上げてきたので、今回は対面とズームの両方で大会を開くことにしました。

ズームを併用することで国際色のある大会にできるのではという思惑もありました。大会は1日だけに、前日の遠足やバンケードは有志の参加にしました。

結果は対面での参加が52名。内、岡山からの参加者が25名でした。岡山県以外の中四国地方からの参加者は12名、中四国以外からの参加者が11名、外国からの参加者が4名でした。特筆すべきは52名中、大学生が9名を占めました。作品にも登場してもらっていて全体的

に若さを演出できたかなと思います。ズーム参加者14名を加えると全体で66名参加となり、中四国地方以外の参加者が20名になりました。ズームを併用することで地方大会でもより多くの人たちとかわりながら運営することができるのではと思います。外国からの参加者がズームと合わせると7名となり、思惑どおり国際色豊かな大会になったのではないのでしょうか。特にインドネシアのデヴィ・



イリアさんからは「インドネシアにおけるエスペラント運動」、ベトナムのホアンさんからは今年の12月に行われる Komuna Seminario について話していただきました。

内容は午前中は広島県の忍岡妙子さん、高知の鍋島博之さん、岡山の荒井敏允さんからそれぞれ発表していただきました。

午後は岡山の新人たちによる作品発表、山陽学園の紹介などが、適宜歌を混ぜながら進行していきま

した。分科会として木谷奉子さんによる「スマホと仲良くなろう」を行いました。また、会場での運営は岡山エスペラント会のメンバーがそれぞれ力を出して協力して、よりよい大会ができたと思います。ありがとうございます。Zoomの併用についてはまだまだ改良しないといけない事が多くありました。Zoom参加の皆さんには不便のなか視聴していただきまして感謝申し上げます。

## 国際色豊かに「エスペラント普及会」100周年記念行事

木元 靖浩 (兵庫県)

9月15日(金)～18日(月)、EPA(エスペラント普及会 Esperanto-Populariga Asocio) 創立100周年記念行事が宗教法人大本で開催された。17日(日)に参加した。

私が大本に来るのは20歳の頃に夏の合宿に来て以来50余年ぶりである。その時は梅田善美さんと三ツ石清さんの授業を受けた。道はもう忘れてしまっていたが、駅から近くなので何とかたどり着き、最初に目についた建物「大本みろく会館」に入り、受付を済ませた。

辺りを見渡すとエスペラントの集まりでよく見かける顔ぶれがある。EPA会員で、KLEG(関西エスペラント連盟)所属団体としてのエスペラント会にも顔を出す人が多いのはご承知のとおりである。挨拶を済ませ、旧交を温め、その一団が占めるソファの前のテレビを見ると「大本エスペラント歌祭」の最中である。私は神事としての、その歌祭りでの歌を聞きながら、エスペラントで和歌を詠むというのはこういう感じなのかと聞いた。実際に行われている、能舞台のある「万祥殿」に移り、大勢の参加者とともに参加した。

マルガレータ・ザレスキー・ザメンホフさんは都合で来られなくなって、「みろく会館ホール」で、オンラインでの講演「エスペラントとザメンホフ一家」があった。通訳と進行は着物姿のEPAの女性。やがて、間をおいて、「懇親晩餐会」である。

KLEG会員で気が付いた範囲では、神戸の人は私ともう1人、富田林の人は4人、堺の人は3人、近江の人は1人、大阪の人はEPA会員でもある人が1人、そして、はりまの人はEPA会員でもある

人が多数。KLEG会員の数名は前日の分科会「Katalin 講座」を受講した。韓国からの参加は、気が付いた範囲でHO Songさん Lee Jungkeeさん。ほかに、欧米系の人数、ネパールから高校生の年代の青年男女20人くらいか。それに、付き添いの大人。この人に、ネパール青年と話しているところを写真に撮られた(大いに宣伝に利用してください)。ロシアから来た、という男性もいた。参加者数は約350人。内、海外からの参加者は79人とのこと。

「懇親晩餐会」の場でHO Songさんに、来年の日韓エスペラント大会はいつどこで?と尋ねると、しばらくして、Respondeculo(責任者)に聞いてきた、10月4～6日全州市で、とのこと。韓国の西寄りの町だ。韓国からほかに参加があったとしても見分けがつかない。Respondeculoに挨拶がしたい、と言っても、ちょっと見当たらないなあ、とのことだった。

神戸で行った関西エスペラント大会では、EPA会員が翻訳した震災復興の歌「しあわせ運べるように」を歌う分科会を持ったのであるが、それに友情出演してくれた「大本神戸本苑」の方々に誘われ、その出し物「しあわせ運べるように」のコーラスに壇上に上がり、隅のほうで参加した。いろいろな出し物があった。ネパールの青年男女は次々と色々な踊りを披露してくれた。阿波踊りもあった。

エスペラントの集まりは、それだけで家族の集まりのような親密な雰囲気があるが、それに宗教団体主催の集まりであることも重なり、さらに親密な雰囲気を感じた。



①彼は村の中の狭い道を小学校へ急ぐ。

【訳例 1】Li rapidas al la elementa lernejo tra la mallarĝa vojo en la vilaĝo. (yosie)

【訳例 2】Li rapidas al la elementa lernejo sur mallarĝa vojo en la vilaĝo. (Jasuko)

【訳例 3】Li rapidas al la elementa lernejo laŭ la mallarĝa vojo en la vilaĝo. (ikona)

「狭い」は mallarĝa (幅が狭い) が使えます。malvasta (面積が狭い) は「交差点」には使えそうですが「道」に使うことはあまりありません。「小学校」は elementa lernejo でいいでしょう。

訳例 1 は原文の意味をそのまま表現していると思えます。訳例 2 もいいのですが、前置詞 sur (～の上で) だと tra (～を通り抜けて) とは違って流れがない感じがします。訳例 3 は laŭ (～に沿って) で表現しています。この語は何か長い物の向きや順路にしたがって進む、あるいは何かの周りの縁を進む場合に使いますので、訳例 1、訳例 2 とはまた別のニュアンスがあります。

公用語根ではありませんが、CA さんは hast/i (非常に急ぐ) を使っていました。遅刻しそうなので急いでいる状況かもしれません。

②家から新しい小学校へは歩いて約半時間だ。

【訳例 1】Li bezonas ĉirkaŭ duonhoron por iri piede al nova lernejo. (綴り修正: CA)

【訳例 2】Necesas ĉirkaŭ duona horo por paŝadi de la hejmo al la nova elementa lernejo. (綴り修正: Haveno)

【訳例 3】Li marŝas de la hejmo ĉirkaŭ duonhoron por atingi tiun por li novan lernejon. (yosie)

「約半時間」は ĉirkaŭ duonhoro です。小学校まで約 2 キロくらいなので少し遠いようです。

訳例 1 は主語として li を補い、bezoni ion (～を要する) を使って「歩いて約半時間かかる」と表現しています。訳例 2 は「約半時間」を主語にして necesi (必要である) を使い、それだけの時間が必要だと表現しています。

訳例 3 は marŝi (行進する) を使っています。こ

の語はある程度長い道を歩いて進む場合にも使いますので、遠距離通学であることの表現でしょう。

③自転車で行けるような道はまだない。

【訳例 1】Ankoraŭ ne estas vojo, sur kiu oni povas veturi per biciklo. (Ivajo)

【訳例 2】Ankoraŭ ne estas vojo, per kiu li povas bicikli tien. (CA)

【訳例 3】Ankoraŭ ne ekzistas tia vojo, kiun li povas trabicikli ĝis la lernejo. (yosie)

「自転車」は biciklo (自転車) で、bicikli なら動詞の「自転車に乗る」という意味になります。「まだ」は ankoraŭ (まだ) が使えます。

訳例 1 は oni (不特定の人) を使っています。「彼」が小さいからではなく、彼以外の人であっても自転車で進めるような道がないということです。

訳例 2 は従属節の主語を li にしています。性別がどちらでもかまわない場合にも li を使うことができますが、この場合は最初の課題で「彼」を使っていたからでしょう。

訳例 3 は ekzisti (存在する) を使った硬めの表現です。「彼が学校まで自転車で走破できるような道は存在しない」でしょうか。trabicikli ion を使うと少し大きな感じがします。そのまま入替はできませんが bicikli で表現できると思います。

④坂を下りて池の横を通り田んぼの間を進む。

【訳例 1】Li piede malsupreniras laŭ deklivo kaj preterpasas lageton kaj plu iras sur pado inter rizkampoj. (yosie)

【訳例 2】Malsuprenirinte deklivon li piediras preter lageton kaj poste inter kampoj. (Ivajo)

【訳例 3】Ili iras malsupren sur deklivo, preterpasas lageton kaj iras inter rizkampoj. (ikona)

「田んぼ」には rizkampoj (田んぼ) が使えます。

原文は短いのですが 3 つの文からできています。訳例 1 は語を補いながら丁寧に表示しています。最後の文の pad/o は公用語根ではありませんが、野原や森の中の自然の土の小道を指します。

訳例 2 は最初の文を分詞副詞で表現しています。訳例 1 とは違いさっさと進む感じでしょうか。

訳例 3 もいいのですが、なぜか主語が ili (彼等) になっているのと、inter (～の間の) を使っているのに rizkampoj と単数になっているのが気になります。(成績は p.14 新しい課題は p.15)

## ワン・ワールド・フェスティバルの成果 中学校の文化祭へ招待される

竹森 浩俊（奈良エスペラント会）

関西エスペラント連盟の理事竹森です。この度中学校の文化祭に招待されましたので、その経緯を報告します。

事の発端は、2023年2月3日、4日に開催された第30回ワン・ワールド・フェスティバルです。初日、開場早々に生徒集団が来場し、数人のグループに分かれて各展示ブースをまわり始めました。その中の1グループが関西エスペラント連盟のブースにやってきて、福田誠さんがエスペラントの説明を行いました。その後再びそのグループが関西エスペラント連盟のブースを訪れ、「エスペラントの説明が良かったのでこちらにします、事務所を訪問したいです」と言って、名刺を置いていきました。その時は何のことかよく分からなかったのですが、後になって学校授業の一環としての見学であることが分かりました。

7月にメールで、「育英西中学校の学生で授業の一環でコミュニティプロジェクトという活動をしていること、ワン・ワールド・フェスティバルにて説明を聞かせてもらい、貴社（＝関西エスペラント連盟）のエスペラントに関する取り組みについて非常に興味を持ち、是非、貴社の取り組みについて実際に訪問し、詳しくお話を伺いたい」と連絡がありました。訪問は日程等の関係で実現せず、かわりにZoom会議でのインタビューということとなり、竹森が対応しました。何故エスペラントを広めようと思ったのか、どのようにしてエスペラントを広めようとしているのか等質問があり、10分程度のインタビューであっという間に終わってしまいました。学校側から文化祭で今回の成果を発表するのは是非見学に来てほしいと連絡があり、見学希望の旨を伝え、文化祭への招待が実現しました。

文化祭は2023年9月2日に開催されました。学校は富雄川沿いの小高い丘にあり、正式名称「学校法人奈良育英学園、育英西中学校・高等学校」です。中高一貫の女子校、国際バカロレアの中等教育プログラムの認定校であることが後で分かりました。受付で展示場所を尋ねると『エウレカ』教室と言われ、場所を案内してもらいました。『エウレカ』はギリ

シア語でアルキメデスが「分かった」という意味で叫んだ言葉だと記憶しています。

展示は、1グループ4名、23グループ、時間を分けて2交代で展示するようで、掲示された時間割を見るとちょうどエスペラントの展示が始まる時間でした。各グループが、白板2枚で展示内容をまとめて、見学者が来る度に説明するというやり方です。竹森はエスペラントの展示を見つけて、一番最初に説明を受けました。白板には、エスペラントとは、活動目的、訪問先、質問内容、質問結果Q1なぜエスペラントを広めようとしたのか、Q2どの方法で広めるのが効果的だったかといった項目で簡略にまとめられており、最後に3択クイズが用意されていました。クイズ解答者にキャンディーを渡すことが定番になっているようです。

エスペラント以外では、隣で地雷除去のNGO、近くではJICA（国際協力機構）の展示など色々な団体の展示が行われていました。この学校では、ワン・ワールド・フェスティバルで見学することが、常時行われていることが分かりました。中学生が、国際交流の展示ブースを見学して、展示内容をまとめて、さらにその内容を来場者に説明するというのはなかなか大変なことです。

今回、ワン・ワールド・フェスティバルでの見学を通じて、中学生がエスペラントに触れる機会が得られ、学校の授業という形ながら、中学生がエスペラントについて考える機会ができたことは大変素晴らしいことだと思います。ワン・ワールド・フェスティバルでのブース展示に関西エスペラント連盟は毎年参加しています（2020年は動画参加、2021年はコロナ禍で参加を見送り）。展示は地味な活動ですが、このような素晴らしい効果をもたらすこともあるのだなあと感じました。



## Rakontetoj el Hamburgo

### – 49€-bileto en tuta Germanio –

Mariko AOSHIMA (Germanio)

Ekde la 1a de majo 2023 komenciĝis tiel nomata 49€-bileto en Germanio. Tiu bileto validas en tuta Germanio por unu monato. Oni povas uzi ĝin nur en regionaj trajnoj kiel RB (regiona trajno), RE (regiona ekspreso) de germana fervojo (Deutsche Bahn), aliaj privatigitaj fervojlinioj (antaŭe apartenis al germana fervojo) kaj urbaj trafikiloj. Oni ne povas uzi en rapidaj trajnoj kiel Intercity (IC), Eurocity (EC) aŭ Intercity-Express (ICE).

Ekzemple monata bileto por la urba vetursistemo de Hamburgo ja kostas pli ol 50€. Do indas havi 49€-bileton por ke oni povu veturi ne nur en Hamburgo, sed ekster la Urbo sen krompago. Se oni veturas de Hamburgo al Berlino kaj reen kostas por normala bileto minimume 88€ pere de regionaj trajnoj.



Monata 49€-bileto de hamburga urba trafiko (hvv)

La intenco de registaro estas, ke multaj homoj uzu trajnojn. Tio helpas daŭripovan medio-protektadon ol veturi per aŭto. Tamen estas kelkaj jam antaŭ-videblaj malavantajoj.

- La trajnoj estas plenstopitaj kaj oni ne trovas facile sidlokon.

- Necesejoj estas foje ne uzeblaj aŭ oni devas longe atendi la vicon.

La Movado 873



Longa vojaĝo en la vagonaro

- Ĉiuj kaj ĉiam ne rajtas kunporti sian biciklon en la trajno.

La germana fervojo (DB) ne kapablas transporti tiom grandamasan kvanton da pasaĝeroj. Mankas pli da vagonoj, mankas pli da ŝoforoj kaj kontrolistoj. Kaj mankas bona organizo! Se ili volas pli da pasaĝeroj, ili devus plibonigi la kvaliton de sistemon. Ne pagu enorman sumon por administrado, anstataŭe plibonigu la kondiĉon por la trajnlaborantoj kaj donu la konfortecon por la pasaĝeroj. Ne nepre okupiĝu la rapidecon de trajno. Tio estas ridinda, ĉar la rapid-trajno ofte malfruiĝas.

Se vi volas nepre veturi dum feria sezono por 49€ bileto, vi devas akcepti malkonvenan situacion. Pli bone vi evitu feriajn tempojn, semajnfinojn, favorajn tempojn, neveturu al feriaj celoj kiel marbordo dum somero...

La statistiko montras, ke ne tiom multe da aŭtozantoj aĉetis la 49€-bileton. Ili uzas daŭre aŭton aŭ aviadilon por veturado aŭ vojaĝo. Se ili loĝas en la vilaĝo kaj ne estas publikaj trafikoj (buso, trajno...), kiel profiti ĝin. Tio signifas, ke tiu bileto nur puŝas homojn por veturi pli ofte ol antaŭe por doni la senton ke oni povas ferii pli ofte kaj malpli koste?

El “Rakontaro Genĝi”, 11-a jarcento

## 54 La Flosponto en la Songô – *Yume no Uki-Fasi* – (5)

源氏物語第 54 帖 夢浮橋 ゆめのうきはし (5)

*eljapanigis belmonto*

“Bonvolu malkaŝi al mi, ne tenante baron por mia malĝojo.”

Kiam la monaĥino grumblis iritite, ne sciante la kernon de la afero, oni anoncis:

“Jen venis la sendito en la nomo de la *soŭduo* de la montotemplo.”

### 8. *Flosboato vidas la Frateton*

8

Strangaĵo okazis, sed,

“Ĉi-foja letero devos esti la aŭtentika letero. Konduku lin ĉi tien.”

Jen alpaŝis la bela bonaspekta knabo en la tre moderna fasono. Ronda pajlokuseno estis prezentita al li por sidiĝi. Sed li surgenuiĝis antaŭ la bambua kurteno kaj plendis:

“La *soŭduo* certigis al mi, ke oni ne regalos min en ĉi tia indiferenta maniero.”

Je la rezono la monaĥino akceptis lin por rekte paroli. Flosboato prenis kaj rigardis la leteron. Sur la koverto estis skribita:

‘Al la princino protektata sub la *nifudavino*. De la montotemplo,’

kun la subskribo de la *soŭduo*. Restis neniuj preteksto kontraŭdiri ‘ne al mi’. Ŝi sentis sin pli malhonora, iris plu internen de la ĉambro, kaj pro abomeno evitis vidi vizaĝon de alia homo.

“Vi pasigas senmemfide ĉiun tagon, sed ĉi-foje tute malagrabla.”

Dirante tiel, la monaĥino legis la leteron de la *soŭduo*.

Hodiaŭ matene la *Dajŝaŝo* vizitis min kaj demandis pri vi. Mi do klarigis la okazaĵon de la tuta komenco. Vi forkuris kaj monaĥiniĝis interne kleraj montanoj, perfide kontraŭ la profunda volo de la karesanto. Mi estas ŝokita, aŭdinte

「なほのたまはせよ。心憂く思し隔つること」と、いみじく恨みて、事の心を知らねば、あわたたしきまで思ひたるほどに、

「山より、僧都の御消息にて、参りたる人なむある」と言ひ入れたり。

あやしけれど、

「これこそは、さは、たしかなる御消息ならめ」とて、

「こなたに」

と言はせられたれば、いとよげにしなやかなる童の、えならず装束(さうぞ)きたるぞ歩(あゆ)み来たる。円座(わらふだ)さし出でたれば、簾のもとについみて、

「かやうにてはさぶらふまじくこそは、僧都は、のたまひしか」

と言へば、尼君ぞ答(いら)へなどしたまふ。文とり入れて見れば、

「入道の姫君の御方に。山より」

とて、名書きたまへり。あらし、などあらがふべきやうもなし。いとはしたなくおぼえて、いよいよ引き入られて、人に顔も見あはせず。

「常も、誇りかならずものしたまふ人柄なれど、いとうたて心憂し」

など言ひて、僧都の御文見れば、

今朝(けさ)、ここに、大将殿のものしたまひて、御ありさま尋ね問ひたまふに、はじめよりありしやうくはしく聞こえはべりぬ。御心ざし深かりける御仲を背きたまひて、あやしき山がつの中に出家(すけ)したまへること。かへりては、仏の責(せめ)そふ

vian konduton, kiu ricevos la punon de Budho. Kiel ni faru? Ne rompu la promeson de la antaŭa vivo ke li estu via edzo, kaj prenu pura lian persiston ami vin. Mi rekomendas, ke vi nur fidu al Budho, ĉar la virto en bonzeco eĉ dum unu tago estas senkalkuleble multa. Mi parolos pli detale post mia alveno. Ĉi tiu Frateto priparolos por momentoj.

La *soŭduo* skribis kaj klarigis ĝuste la kernon de la afero, sed la aliaj homoj ne komprenis.

“Kiu estas ĉi tiu knabo? Ho, kiel iritiĝa ni estas! Vi kaŝas fakton eĉ nun!”

Flosboato deturnis sian vizaĝon kontraŭ la persekuto, kaj vidis, ke la knabo estas tiu frateto kiun ŝi imagis kun kareso en la vespero, kiam ŝi decidis sian morton. Kiam ili loĝis sub la sama tegmento, li kontudis petole kaj arogante ĝis malŝato, sed la patrino tre amis lin, kaj akompanis lin dum vojaĝoj al *Udi*. Post iom da maturiĝo ili sensis sin gefratoj reciproke – kvazaŭ tagoj en songo. Antaŭ ĉio ŝi volis scii pri la stato de la patrino, dume aŭdis pri la aliaj homoj iom post iom. Vidante la figuron de Frateto, nun ŝi ne povis eĉ demandi pri la patrino, kio kondukis ŝin al larmoverŝado.

### 9. rifuzo paroli kun Frateto

La monaĥino sentis la senditon iom simila al Flosboato, do diris:

“Verĝajne li estas via frato. Li havos vortojn paroli al vi. Do ni invitu lin en la ĉambron.”

Flosboato hezitis, pensante,

‘Kio? Li kredas, ke mi ne vivas en ĉi tiu mondo. Mi hontas, se li vidos min tute ŝanĝita al la monaĥina figuro’,

kaj respondis:

(daŭrigota)

べきことなるをなむ、承り驚きはべる。いかかはせむ。もとの御契り過 (あやま) ちたまはで、愛執 (あいしふ) の罪をはるかきこえたまひて、一日の出家 (すけ) の功德 (くどく) ははかりなきものなれば、なほ頼ませたまへ、となむ。ことごとには、みづからさぶらひて申しはべらん。かつがつこの小君聞こえたまひてん。

と書いたり。

まがふべくもあらず言きあきらめたまへれど、他人 (ことひと) は心もえず。

「この君は、誰にかおはすらん。なほ、いと心憂し。今さへ、かく、あながちに隔てさせたまふ」と責められて、すこし外 (と) さまに向きて見たまへば、この子は、今ほと世を思ひなりし夕暮にも、いと恋しと思ひし人なりけり。同じ所にて見しほどは、いとさがなく、あやにくにおごりて憎かりしかど、母のいとかなしくして、宇治にも時々率 (あ) ておはせしかば、すこしおよすけしままにかたみに思へりし童心 (わらはごころ) を思ひ出づるにも、夢のやうなり。まづ、母のありさまいと問はまほしく、こと人々の上はおのづからやうやう聞けど、親のおはすらむやうはほのかにもえ聞かずかすと、なかなかこれを見るにいと悲しくて、ほろほろと泣かれぬ。

### 9

いとをかしげにて、すこしうちおぼえたまへる心地もすれば、

「御はらからにこそおはすめれ。聞こえまほしく思すこともあらむ。内に入れたてまつらん」

と言ふを、何か、今は世にあるものとも思はざらむに、あやしきさまに面変 (おもがは) りしてふと見えむも恥づかし、と思へば、とばかりためらひて、

(続く)

## Pri la duonpatrino de Neĝulino

AIKAWA Setuko (Kioto)

Neĝulino という名前は、複数のフィクションで使われている。日本の民話「雪女」と、有名な「白雪姫」と。ところで白雪姫のまま母は、どうして「いちばん美しい」という評価にこだわったのだろうか。

La vorto "Neĝulino" estas uzata en pluraj fikcioj.

Unu estas legendo de norda parto de Japanio. Feinon de neĝo oni nomas "neĝulino". Ŝi renkontas unu junulon en vintra monto. Kutime ŝi mortigas homojn, kiuj venas en neĝan monton, sed tiam ŝi hezitis tion fari, ĉar ŝi ekamis la junulon. "Al neniuj malkaŝu, ke vi renkontis min," ŝi avertis kaj li promesis tion. Post iom da tempo nekonata virino vizitis lin kaj ŝi fariĝis lia edzino. Jaroj pasis. En iu tago li rememoris pri la neĝa feo kaj murmuris: "antaŭ multaj jaroj mi renkontis neĝulinon en monto. Ŝia trajto similis al vi." La edzino konfesis ke ŝi estas ja tiama neĝulino, kaj foriris ien. Ŝi neniam revenis, ĉar li ne plenumis la promeson.

Alia "Neĝulino" estas nomo de knabino en fama germana fabelo. Reĝino sidis ĉe fenestro kaj kudris en neĝa tago. Ŝi erare pikis sian fingron per la kudrilo kaj tri sangaj gutoj falis sur neĝon. Tiam ŝi ekhavis deziron havi infanon blankan kiel neĝo, ruĝan kiel sango, nigran kiel ebono de la fenestra kadro.

Ĉu ŝi kudris malferminte fenestron en malvarma neĝa tago? Kial sango falis sur neĝon, se ŝi kudris en la ĉambro? Estas stranga situacio, sed ni ne tro atentu pri nenatureco. Fabeloj estas tiaj.

Baldaŭ ŝi naskis infaninon. La infanino havis blankan haŭton kiel neĝo, ruĝajn lipojn kiel sango, kaj nigran hararon kiel ebono. Ŝi nomiĝis Neĝulino. Bedaŭrinde la patrino mortis.

2023.11

Post unu jaro la reĝo prenis alian edzinon. Nova edzino de la regno kaj duonpatrino de Neĝulino. La nova reĝino havis magian spegulon kaj ŝi ĉiam demandis al ĝi:

*Speguleto mia, Speguleto hela,  
Kiu en la lando estas la plej bela?*

\*(laŭ traduko de Kabe)

La spegulo ĉiufoje respondis, ke la reĝino estas la plej bela. Ŝi estis kontenta.

Kiam Neĝulino fariĝis sepjara, la spegulo komencis deklari, ke la plej bela estas ne la reĝino, sed Neĝulino. La reĝino jam ne povas esti trankvila.....

Kial la reĝino senĉese konstatis sian belecon? Kial ŝi fariĝis tiel maltrankvila perdinte sian plejecon kaj eĉ volis mortigi Neĝulinon?

Simpla ĵaluzo?

Mi pensas, ke ŝi estis taksata nur pro ŝia beleco.

La reĝo, la korteganoj, la regna popolo... ĉiu en la lando oni taksis virinojn laŭ beleco, al mi ŝajnas.

La reĝino provis pereigi Neĝulinon ripete kaj ripete. Unue ŝi ordonis al ĉasisto mortigi la knabinon, sed li kompatis ŝin kaj lasis ŝin en arbaro. La reĝino komprenis, ke ŝi mem devas agi por plenumi sian deziron. Ankaŭ la dua provo malsukcesis, se ŝi elpensas la trian rimedon.....

Ŝia agemo kaj persisto pri sia celo povas esti laŭdinda, se ŝia ago ne estus tiel malica kaj krima. Ŝi havas energion kaj laboremon por plenumi ian celon, kiun ŝi opinias necesa.

Se ŝi helpus la reĝon kaj ministrojn en regado de sia lando, se ŝi povus utiligi sian kapablon kaj energion en utila laboro, ŝi ne bezonus obstini pri sia beleco kaj ĵaluzi kontraŭ sepjara infano.

En la mondo de tiu fabelo homoj taksas virinojn ne per saĝeco kaj kapablo, sed nur per ilia beleco. Ĉu tiu supozo estas stranga?



## La Informilo de la 4a Vintra Lernejo 第4回エスペラント冬期学校のご案内

楽しみながらエスペラントの力を伸ばすことをコンセプトに下記の日程で第4回冬期学校を企画しました。会場のエスペラント会館は交通の便のよいところですので、日帰り通学も可能です。奮ってご参加ください。

### ●第4回冬期学校の概要

主催団体：一般社団法人 関西エスペラント連盟

開催場所：エスペラント会館 〒600-8455 京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6

開催日程：2024年1月27日（土）～28日（日）

|          |             |             |             |             |        |
|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|
| 1月27日（土） | 12:00～13:00 | 13:00～13:30 | 13:30～15:00 | 15:30～17:00 | 17:00～ |
|          | 参加者受付       | 開校式         | 授業①         | 授業②         | 夕食と分科会 |
| 1月28日（日） | 10:00～11:30 | 11:30～13:00 | 13:00～14:30 | 14:30～15:00 |        |
|          | 授業③         | 休憩          | 授業④         | 閉校式         |        |

授業①：エスペラント実用作文教室（相川節子さん）

授業②：エスペラントで伝える思い出のレシピ（松田洋子さん）

授業③：迷いやすい文法を克服し、表現力向上（田熊健二さん）

授業④：エスペラントで狂言を演じてみよう！（島谷剛さん）

夕食と分科会：「食事をしながらこれからのエスペラント運動につき意見交換する分科会」

※事前課題など詳細はお申し込みの方に連絡いたします。

### ●参加費用について

授業①、②、③、④全参加 7,000円（1,000円お得）部分参加一コマあたり 2,000円

分科会のみ参加は 1,000円（授業参加者は分科会は0円）

参加者割引（二日間とも参加の方のみ）KLEG 会員割引 1,000円

地域割引：北海道・沖縄 3,000円／近畿近接県（※）より遠方 2,000円／近畿近接県 1,000円

※福井・岐阜・鳥取・三重・岡山（KLEG 会員割引と併用可）

障害者割引 3,000円／青年割引（参加時点で35歳未満）3,000円（KLEG 会員割引と併用不可）

お申し込みの確認時に参加費用をお伝えします。

### ●食事について

近隣の飲食店で食事またはスーパーやコンビニへ買い出しなど各自での手配をお願いします。

### ●宿泊について

各自で手配をお願いします。会場に近い宿泊施設は以下のとおりです。

ゲストハウス八幡（やはた） 下京区八幡町 544 (075) 204-5897（徒歩すぐ）

ゲストハウスおりがみ 下京区本柳水町 766（徒歩10分）

東横イン五条烏丸（からすま） 下京区烏丸通松原下る五条烏丸町 393

### ●申し込み方法

参加を希望される授業（①、②、③、④）を明記の上、2023年12月8日（金）までにメールにて [esperanto@kleg.org](mailto:esperanto@kleg.org) 宛てにお送りください。事務の都合がつき次第、メールにて参加確認書兼参加費事前振込依頼書をお送りします。

万一、応募者数が見込み数に達しない場合は中止とします。2023年12月22日（金）までに実施・中止の判断を行い、実施の場合は振り込み期日をご連絡します。中止の場合もその旨をお伝えします。宿泊手配は実施決定後をお願いします。

●閉校式後、自由参加で阪急京都河原町駅北東、祇園界隈の散策を予定しています。

## Songoj dum Dek Noktoj (11)

NATUME Sôseki, trad. OKI Keimei

### La sesa nokto

Oni diris ke Unkei<sup>1)</sup> skulptas la statuon “Niô (Nioo)” aŭ Vajrapano (en sanskrito)<sup>2)</sup> ĉe la pordego de la templo Gokoku-ji (Gokoku-ji)<sup>3)</sup>. Tial mi promenante iris. Kiam mi alvenis al la loko, multaj homoj jam amasiĝis kaj fervore taksis lian laboron.

Granda ruĝa pino staris en la distanco de 5-6-ken-oj (9-10-metroj)<sup>4)</sup> antaŭe de la pordego. Ties trunko kreskis oblikve, kaŝis la parton de la tegolaro de la pordego kaj etendiĝis foren al blua ĉielo. La pejzaĝo kun la pordego kaj kun la pino estis tre bela, ĉar verdo de la pino kaj vermiljono de la lakita pordego harmoniis unu kun la alia. Plie, la pino staris en bona loko. Por ke ĝi ne ĝenu vizitantojn rigardi la pordegon, ĝi, staranta oblikve ĉe la maldekstra rando de la pordego, etendiĝis supren ĝis la alteco de la tegmento kaj disetendis siajn foliojn plivaste laŭ alteco. Tio ial ŝajnis malnovmoda. Tia povis esti la modo en la periodo Kamakura<sup>5)</sup>.

Sed la spektantoj ĉiuj estis tiuj, kiuj vivas en la periodo Meiji (Meiji)<sup>6)</sup> kiel mi. El ili la plej multaj estis rikiŝistoj. Ili devis esti enuaj stari ĉe angulo de stratoj kaj atendi homojn veturontajn per rikiŝo.

“Ja estas tre grande!” diris iu.

“Skulpti ĝin ol muldi aŭ modli homan figuron devas esti multe malfacile,” iu diris.

Kiam mi konvinkiĝis pri la opinio, iu viro diris: “Certe Niô! Eĉ nun oni skulptas ĝin, ĉu ne? Ĉu vere? Mi ja kredis ke tutaj statuoj de Niô estas skulptitaj en malnovaj tempoj.”

“Li ŝajnas forta. Li povas akiri ĉion ajn. Se oni demandas, kiu estas la plej forta, de malnova tempo oni diras ke neniu estas tiel forta kiel Niô. Mi ne scias klare, sed Niô ja estas pli forta ol Yamato-takeru-no-mikoto (Jamato-takeru-no-mikoto)<sup>7)</sup>, oni diras.” Eĉ iu

## 夢十夜 (11)

夏目 漱石

### 第六夜

運慶(うんけい)が護国寺(ごこくじ)の山門で仁王(におう)を刻んでいると云う評判だから、散歩ながら行って見ると、自分より先にもう大勢集まって、しきりに下馬評(げばひょう)をやっていた。

山門の前五六間の所には、大きな赤松があって、その幹が斜(なな)めに山門の裳(いらか)を隠して、遠い青空まで伸(の)びている。松の緑と朱塗(しゅぬり)の門が互いに照(うつ)り合ってみごとに見える。その上松の位地が好い。門の左の端を眼障(めざわり)にならないように、斜(はす)に切って行って、上になるほど幅を広く屋根まで突出(つきだ)しているのが何となく古風である。鎌倉時代とも思われる。

ところが見ているものは、みんな自分と同じく、明治の人間である。その中(うち)でも車夫が一番多い。辻待(つじまち)をして退屈だから立っているに相違ない。

「大きなもんだなあ」と云っている。

「人間を拵(こしら)えるよりもよっぽど骨が折れるだろう」とも云っている。

そうかと思うと、「へえ仁王だね。今でも仁王を彫(ほ)るのかね。へえそうかね。私(わし)やまた仁王はみんな古いのばかりかと思ってた」と云った男がある。

「どうも強そうですね。なんだってえまず。昔から誰が強いって、仁王ほど強い人あ無(な)いって云います。何でも日本武尊(やまとたけるのみこと)よりも強いんだってえからね」と話しかけた男もある。この男は尻を端折(はしよ)って、帽子を被(かぶ)らずにいた。よほど無教育な男と見える。

viro tiel alparolis al iu alia. Li, enŝovinta la randon de sia kimono de sia dorsa flanko inter la obion kaj la talion, ne havis ĉapelon sur sia kapo. Li aspektis ege needukita homo.

Unkei restis tute indiferenta pri detalaj taksoj farataj de la spektantoj kaj movis skulptilon kaj maleon. Li neniam retrorigardis ilin, kaj, sidante rajde sur alta parto de la korpo de Niô, fervore skrapis ties vizaĝon kaj ĉirkaŭ ĝi per skulptilo.

Li metis la objekton similan al malgranda nigra ĉapo nomata "Eboŝi" sur sian kapon kaj ŝajne surmetis al si la vestaĵon "Suô (Suo)"<sup>8)</sup> sed ne klare klarigeblan vestaĵon. Li ligis ties grandajn manikojn ĉe sia dorso. Tia aspekto estis ege malnovmoda. Ŝajnis ke tia vestaĵo tute ne harmonias kun tiu de la spektantoj bruantaj. Mi pensis, kial nuntempe ankoraŭ vivas Unkei. Cerbumante pri tia stranga afero, mi ankaŭ starante rigardis lin skulptanta. (daŭrigota)

運慶は見物人の評判には委細頓着(とんじゃく)なく鑿(のみ)と槌(つち)を動かしている。いっこう振り向きもしない。高い所に乗って、仁王の顔の辺(あたり)をしきりに彫(ほ)り抜(ぬ)いて行く。

運慶は頭に小さい烏帽子(えぼし)のようなものに乗せて、素袍(すおう)だか何だかわからない大きな袖(そで)を背中(せなか)で括(くく)っている。その様子がいかに古くさい。わいわい云ってる見物人とはまるで釣り合が取れないようである。自分はどうして今時分まで運慶が生きているのかなと思った。どうも不思議な事があるものだと考えながら、やはり立って見ていた。

(続く)

## Rimarkoj (La sesa punkto):

- 1) Unkei (運慶): Li estas skulptisto de Budhostatuo kaj vivis en la periodo de la fino de la periodo Heian (794-1185) ĝis la komenco de la periodo Kamakura (1185-1333), sed la tagoj de liaj naskiĝo kaj morto ne estas klaraj.
- 2) Niô (Nioo) aŭ Vaĵrapano/Vaĵradaro (sanskrito): Protektanto de Budhismo. Alinomo estas Kongôrikisi (Kongoorikiŝi, 金剛力士).
- 3) la templo Gokoku-ĵi (Gokoku-ĵi, 護国寺): La templo estas budhisma templo. Ĝi estis fondita en la jaro 1681 (la periodo Edo) kaj apartenas al la sekto Singon (Ŝingon, 真言宗). Ĝi troviĝas en la kvartalo Bunkyo-ku (Bunkjo-ku) de Tokio.
- 4) 5-6-ken-ojn (9-10-metroj): "Ken" ( 間 ) estas unu el japanaj mezur-unuoj pri distanco. Unu ken-o estas ĉirkaŭ 1.818 metroj.
- 5) la periodo Kamakura: Ĝi komenciĝis ĉirkaŭ en la jaro 1185 kaj finiĝis en la jaro 1333.
- 6) la periodo Meiji (Meiji) : Ĝi komenciĝis en la jaro 1868 kaj finiĝis en la jaro 1912.
- 7) Yamato-takeru-no-mikoto (Jamato-takeru-no-mikoto, 日本武尊): Li estas unu el legendaj herooj en antikva periodo. Lia nomo kune kun aliaj multaj dioj aperas en la libro Kojiki (Kojiki, 古事記) kompletigita en la jaro 712, kiel la plej malnova libro pri la histrio de Japanio.
- 8) la vestaĵon "Suô (Suo)" (素袍): Ĝi estas unu el japanaj vestoj kaj estis vestitaj ĉefe de samurajo en la periodoj de Muromati (Muromaĉi) (1336-1573) ĝis Edo (1603-1868). La vestaĵo estis apartiga en du partojn, t.e. la supra parto por kovri supran parton de korpo kaj la malsupra parto por kovri malsupran parton de korpo kiel pantalono kun tre larĝaj cilindraj formoj, en kiujn oni trametas siajn piedojn.

## ハンガリーから友人の息子さん来阪

藤井 由美子 (富田林エスペラント会)

8月の終わりにハンガリーの友人 Györgyi Asztalosné Koltai から、「息子の Dáni (Dániel Asztalos) と彼の友人二人が念願の日本旅行をする、大阪にも行くので渡したいものがあるので会ってほしい」との連絡がありました。Dáni はエスペラントを長い間使っていないものの、かつて勉強していたという事なので、その後は直接エスペラントでやり取りをし、大阪での待ち合わせ場所、時間などを決めました。

東京を皮切りに2週間の日本旅行で京都、奈良の後9月15日に来阪。16日、11時にJR天王寺駅の改札口で待ち合わせることにし、富田林エスペラント会の3人と出向きました。外国人旅行者の多い人込みの中で見つけることができるかどうか多少の不安もありましたが、事前に写真を送ってもらっていたのですぐわかりました。当会員の一人がハンガリーの豆知識、ハンガリー語の挨拶、簡単な単語など事前に用意してくれ、スマホからの発音と共に頭に叩き込みましたが、にわか仕立てではいざという時すんなりいかないものですね。

Györgyi は、ハンガリーの著名な作家でエスペラント作家でもある István Nemere さんの本の出版に尽力されている方です。また今年のトリノ世界エスペラント大会に参加し、その間“Infanlibro de la Jaro”でご自身が出版にかかわった“La Malbela Knabineto”が賞をとったと大喜びでした。

その本と、Nemere さんの“JESA”、“Kiu serças,

trovas”をお土産にいただきました。Dáni はそのお土産を宿泊先のホテルに忘れ、取りに帰るといいうハプニングがありました。

Dáni と友人の一人はパイロット、もう一人は同じ航空会社でパソコンを使っている仕事だそうで、Dáni はジブリ作品が大好きで日本語を勉強中、今回の日本旅行で日本語力を上げたいとの事でした。Györgyi からなるべく日本語とエスペラントで話してほしいとの要望がありましたが、短い時間だったのであまり助けにならなかったのでは。友人二人とは英語のみでの交流でしたが、喫茶店でのお茶、お寿司を囲んでの昼食、その後希望のあべのハルカスに案内と、3時間半ほど歓談を楽しみました。その後、三人は海遊館にエイを見に行かれましたが海がない国なのでそれもあり、と思った次第です。

大阪滞在は一日半で翌日は神戸、姫路、広島に向かい、その後は新幹線で東京へ、そして帰国の途につくということでした。

連日の猛暑の中、寸暇を惜しんで旅をした三人ですが、また来日したいとの事。初めての日本の印象などお聞きできたらいいなあと思っています。



写真の中、右奥の一番若い男性が Dáni

La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La

## 各地のザメンホフ祭予定

11月26日(日) 京都、近江、枚方、宇治城陽合同。13時～16時半、エスペラント会館で。

12月9日(土) はりま、神戸合同。13時～、神戸生活創造館 (JR 新長田海側、新長田合同庁舎1階) で。忘年会は鉄人28号斜め向かいの居酒屋「杉玉」で。

12月16日(土) 宮崎エスペラント会。14時～宮崎市民プラザ4階中会議室で。

12月17日(日)。北摂ザメンホフ祭 (池田、茨木、吹田、高槻、豊中合同) 13時半～16時半、吹田市立千里山コミュニティセンター創作室で。

2023.11

## 豊中駅北口にポスター展示

豊中エスペラント会が市民公益活動支援センターのショーウィンドに10月下旬まで展示。 [←佐野寛]

## エスペラントふれあい講演会

11月3日(金) 13時半～16時、吹田市文化会館メイシアター小ホールで「ハンセン病問題を知る—ハンセン病罹患者のおはなし—」(講師：山城清重さん、対談者：佐藤芙優子さん) を開催する。山城さんは小学四年で長島愛生園に入所、1962年に社会復帰した。佐藤さんは回復者の話を聞く活動を

している。

[←大畑 賀代子]

### 神戸エスペラント会入門講習会

11月11日(土) 14時から2時間程度、神戸市立青少年会館サークル室D (JR 神戸駅海側、神戸ハーバーランド5階)で入門講習会(エスペラント体験会)を開く。 [←木元 靖浩]

### エスペラント会館で入門講座

11月2日～12月21日(全7週) 11月23日を除く毎週木曜日 18時半～20時半、エスペラント会館4階教室(東京メトロ「早稲田」駅出口1番から徒歩2分。エレベーターなし)。受講料3000円(教材費、宿題添削費含む)。定員10人。視覚障害者も受講可(教材は点字版提供)。

申込締切10月30日(月)。申込先:ロンド・コルノ、電話 03-3429-5173 (留守録付)、メール korno@esperanto.ne.jp

### 鳥取でエスペラントに関する講演

11月19日(日) 14時～16時、鳥取大学広報センターで「国際言語『エスペラント』とは? The International Language Esperanto」と題して、エルマー・デュンサー (Elmar Duensser) 氏(鳥取県琴浦町在住)が講演する。 [←後藤 斉]

### 京都エスペラント会例会にお客様

9月13日(水) 京都のエスペラント会館で行われている例会に、ロシア人 Roman Efremov さんが参加。エスペラント普及会の100周年記念行事に参加するため来日した。インターネットでエスペラントを学び、これまでに世界大会や世界青年大会



に何度も参加したとのこと。日本の神道や仏教に関心が深く、短期間の滞在でもできるだけ多くを見てまわりたいと話した。出席者は5人。

9月27日(水)の例会には、スイス人の Mirejo Grosjean さん、Martine Moine さん、Sonia Daubercies さんの3人(写真中央着席)が参加。それぞれが自己紹介し、会員の野田淳子さんが歌を披露した。3人は上記の記念行事のため来日したが、このあと中国・四国大会や日本大会に出席する予定とのこと。出席者はお客様を含めて10人だった。

[←相川 節子]

### Kurantaj Vortoj

トーンポリシング riproĉi pri tono (告発者を)  
セルライト celulito (美容用語)  
無知学 agnotologio aŭ nesci-studo

### kultura heredaĵo

tradukita al Esperanto

あひみでの  
のちの心に  
くらぶれば  
昔は物を  
思はざりけり

(43 権中納言敦忠 906-943)

La Movado 873

### 小倉百人一首 Cent Versis Utaon

tradukis SIMATANI Takesi



Post rendevuo  
la amo ekardiĝis!  
Antaŭe mi vin  
sopiris vane, dum nur  
la tempo forperdiĝis.

(Gon-Ĉuunagon Acutada)

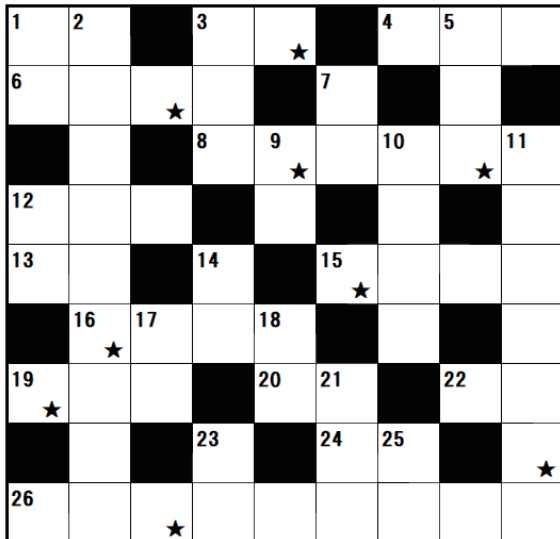
# Vortkruca enigmo

TAKEMORI Hirotoŝi

Vicigu adekvatan 9 literojn trovitajn en la kvardratetoj kun stelo. Tiam vi akiros aŭtunan frukton..

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de novembro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: ĉuj vortoj ne portas finaĵon.



**Horizontale:** 1. Kie estas mia monujo? Mi forgesis ĝin ~. 3. La Biblio diras ke ni devus ~i nian proksimulon. 4. Kiom ~ diris la krimulo, la policisto ne kredis lin. 6. Ĉiu ceramikaĵo de Pikaso estas ~a. 8. Ĉu vi povus ~i la hotelon por mi? 12. Nigra ~o estas kosma objekto, fermita regiono en la spaco-tempo. 13. Virta homo ~ mensogas, ~ trompas kaj ~ ŝtelas. 15. La ~o de osmanto estas forta. 16. Karesformo de "patro". 19. La vortaro estas listigita en alfabeto ~o. 20. La venonta ~ okazos en Tanzanio. 22. Mia patrino donis al mi multe ~ mono. 24. Leĝo pri Egala Ŝanco por Viroj kaj Vir~j. 26. La lernantoj malobeis al siaj ~oj.

**Vertikale:** 1. ~ frapas min sur la dorson. 2. Kompanio, firmao. 3. La dentoj de leono estas 2023.11

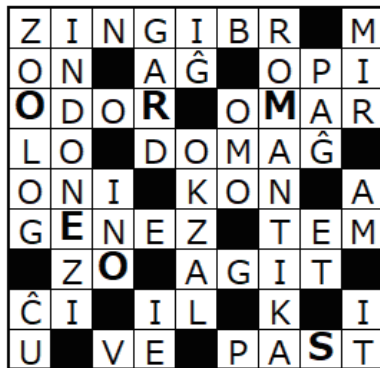
~aj. 5. =leĝo. 7. La ~o de nukleaj armiloj signifas la detruon de la homaro. 9. Fajr~o, mon~o, neĝ~o. 10. Tio estas la unua venko de la teamo en 18 jaroj ~2005. 11. Estas pluraj ~oj de ĉi tiu viruso. 12. Mallongigo de "tiel nomata". 14. En la senhoma dom~o estas mortintaj blatoj kaj ratoj. 17. La Esperantismo estas pen~o disvastigi en la tuta mondo la uz~on de lingvo neŭtrale homa. 18. ~ pli ĉokoladon vi manĝas, des pli vi dikiĝos. 21. ~ estas tiu ulo bone dancanta? 23. Lag~o, mont~o, rid~o. 25. Nun ~ kantu kanton de paco!

## La solvo al la septembra enigmo:

MELONGENO

La ĝustan solvon donis 12 legantoj:

CA,  
TADA,  
島津 泰子、  
濱田 國貞、  
Sayuri、  
Grebo、  
松川 まきこ、  
本田 照美、  
平井 倭佐子、  
にし のりこ、  
武藤 たつ子、  
水渡 篤子



**Korekto:** Inter aŭgustaj solvintoj estas ankaŭ S-ino 水渡 篤子. Pardonon petas redakcio.

## 楽しい作文教室 (147) 成績

9人の方から応募がありました。( )内は留意事項です。

うん、良いね: yosie, Ivajo, CA( ② cirkaŭ, ikona( ③ kiu だけ? ) )。

良いね: Haveno( ② lernrejo ④ ponto?), Jasuko( ③ 迷子? ), Drako( ② 主語は? ③ 道に到達? ), Celejo( ③ 道に到達? ), はるちゃん( ① viriĝo)。

## Mikspoto (当欄は敬称略)

★9月8日付朝日新聞「経済・総合」欄の「地球の歩き方」V字回復の記事に、エスペラントの基本会話集も掲載された『地球の歩き方 ムー』が13万部も売れ異色のヒットを遂げたと。[←北川 郁子]  
★podcast「ゆる言語学ラジオ」がエスペラントを3回にわたりていねいに解説。「世界平和のため



めに言語を作った男の物語」、「エスペラントは苦境だらけ。なぜ、世界中に広がったのか?」、「緻密に設計された人工言語の文法は、あまりにも美しい」。YouTube (https://www.youtube.com/watch?v=Mmnv97R91Ns など) でも配信されている。 [←川越 ユリ、北川 郁子ほか]

★9月15日(ネット)16日(新聞)、南ドイツ新聞が記事「楽園への道」を掲載。「エスペラントで恒久平和を」という三好鋭郎さん提供の広告が注目されていると。「言葉の革新的容易性に驚き、もはや英語を学びたいとは思わなくなるのでは」とも。 [←「中四国だより」]

★チェーホフ『三人姉妹』の翻案を通して日韓の歴史を見つめる『外地の三人姉妹』が3年ぶりの11月29日(水)～12月10日(日)に

### 楽しい作文教室1月号課題 (11月20日締切)

- ①市は村と道路・小学校の新設契約をしていた。
  - ②村の一部編入で市に新小学校が必要になる。
  - ③以前の村立小学校は村と合併した町が使う。
  - ④いちばん近い市の小学校でも3キロ以上ある。
- (ヒント) 契約 kontrakto、併合する aneksi ion、for を調べましょう。

日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛

[電子メール] c\_tak@esperanto.ne.jp

(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

KAAT 神奈川芸術劇場で再演される。日本語・韓国語に加え、エスペラント・英語・ドイツ語が舞台上で飛び交う。

[←後藤 斉]

★『學士會会報』9月号の表紙は“Monda Kuriero”(Aŭgusto 1930)の黄ばんだ写真。

その裏の表紙解説では、西野嘉章東大名誉教授が日本エスペラント学会(現協会)創立会員の石黒修(1899～1980)を紹介している。 [←水渡 篤子]



### 第31回ワン・ワールド・フェスティバル

日時: 2024年2月3日(土) 10時～17時、  
4日(日) 10時～16時半

会場: 梅田スカイビル・ステラホール(大阪市北区大淀中1-1-30 タワーウエスト3階、JR大阪駅から徒歩7分、阪急大阪梅田駅から、Osaka Metro 梅田駅から、どちらも徒歩9分)

会場が昨年とは違いますのでご注意ください。関西エスペラント連盟は昨年と同様にブース展示を行います。

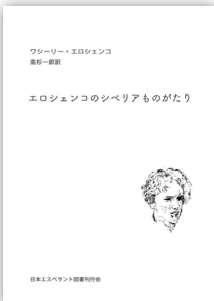
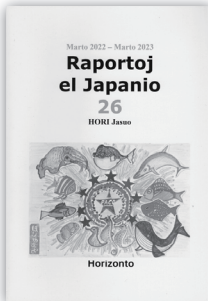
### KLEG 事務局だより

★ザメンホフ祭で購入したい書籍・CDがありましたら、取り寄せますので、できるだけ早く事務局にご連絡ください。

### KLEG 後援会へのご寄付 (2023年8・9月、敬称略)

|      |          |
|------|----------|
| 匿名   | 10,000 円 |
| 浮田政治 | 10,000 円 |
| 黒柳吉隆 | 8,000 円  |
| 中道民広 | 5,000 円  |
| 梁池忠夫 | 1,200 円  |
| 平岡五城 | 600 円    |
| 柴山純一 | 600 円    |

ご支援、ありがとうございます。



★ 新刊・新着 ★

**Lando kiu vekigis** 3500円  
 Rakontoj el Ukrainio ー原発事故、独立、政変、そしてロシアの侵攻。激動のウクライナを生きる人びとを Kalle Knivilä が描く。A5判、169p.

**Mia vivo kun Esperanto** 2700円  
 出版社 KAVA-PECH を主宰する Petr Chrdle がエスペラントとともに歩んだ半生を回想。親交のあった栗栖継を語る文章も。A5判、251p.

**Raportoj el Japanio 26** 1800円  
 堀泰雄の「報告」最新刊。ウクライナ情勢をめぐる「世界の声」、フクシマの報告、文芸コンクール入賞作品など多彩な内容。A5判、288p.

★ 学び、深めるエスペラント ★

**エスペラント 日本語を話すあなたに** 880円  
 藤巻謙一著。日本語と比較しながらエスペラントを概観する。新しい視点で学ぶエスペラント。

**エスペラント中級独習** 2200円  
 藤巻謙一著。通信講座指導の成果を活かした練習メニュー満載。朗読CD (MP3形式) 付き。

**エスペラント文法の散歩道** 1000円  
 「単数か複数か」「いろいろな de」「la の用法」など文法知識の整理と活用に(改訂新版)。

**Ekzercoj de Zamenhof** 300円  
 「エスペラント基本文例集」。ザメンホフの“Ekzercoj”と“La Feino”を初心者のために再編集。

**Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia** 600円

エスペラントの原点を示すザメンホフによる論文。  
**エスペラント運動を考えるー La Movado 誌から** 1000円

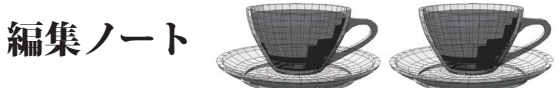
本誌掲載の論説 56 編を収録(峰芳隆編)。運動の現在と将来を考えるための好個の一冊。

★ **日本エスペラント図書刊行会の本** ★  
**エロシェンコのシベリアものがたり** 800円  
 高杉一郎が翻訳したエロシェンコのシベリア体験にもとづく4作品。うち「チェスの三手詰め問題」は訳者没後に原稿が発見され、初出となる。

**La pordego** 1200円  
 崖下の暗い家でひっそりと暮らす宗助と御米。犯した〈罪〉は二人をとらえて離さない。夏目漱石円熟期の小説『門』(土居智江子訳)。

**Kuru, Melos!** 350円  
 太宰治「走れメロス」。原作テキスト付き。

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。



**編集ノート**  
 ★外国からエスペランティストの訪問が増えてきました。行事も活発に。12月号では日本エスペラント大会についてご報告できると思います。(島谷剛)

編集部宛連絡・投稿は <lamovado@gmail.com>へ

発行所：ラ・モバード社 編集：相川節子 発行人：染川隆俊 定価280円 送料63円 1年3800円 送料共  
 本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204  
 電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.org  
 振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org  
 九州支局：九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方 電話 (0957)43-4352  
 中国・四国支局：中国・四国エスペラント連盟内 763-0063 香川県丸亀市新浜町 2-4-18 小阪清行方 電話 (0877) 22-4771